

記載例25 休業補償請求書 (差額)  
都支部様式第2号の2

差 額

休業補償請求書  
休業援護金申請書

認定番号	〇〇〇〇-〇〇〇〇
請求回数	第 1 回

地方公務員災害補償基金東京都支部長 殿

請求(申請)年月日 令和 5 年 11 月 14 日

請求(申請)者の住所 〇〇県〇〇市〇〇町1-2

フリガナ 新宿 太郎 (自署又は押印)

氏 名 シンジュウ タロウ 新宿 太郎

個人番号 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

この請求(申請)書による休業補償費(休業援護金)の受領を  
 (受領者) 総務課長 甲野 一郎 に委任します。(委任者) 新宿 太郎 (自署又は押印)

所屬団体名	東京都	所屬部局名	〇〇局〇〇部
氏名	新宿 太郎	職名	主事 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 令第1条職員
昭和 58 年 1 月 1 日生 (40 歳)		負傷又は発病の年月日	令和 5 年 7 月 3 日
請求回数	期 間	請求日数	休業補償
1	7 月 4 日 ~ 7 月 31 日	29 日	227,650 円
2	8 月 1 日 ~ 8 月 31 日	14 日	102,469 円
	月 日 ~ 月 日	日	円
	月 日 ~ 月 日	日	円
	合 計	43 日	330,119 円
			休業援護金
			75,864 円
			34,149 円
			円
			円
			110,013 円
			4 平均給与額
			13,393 円
			13,084 円

\*5 所属の長の請求書 令和 5 年 11 月 13 日 文書番号 500 第 〇〇〇 号

所在地 新宿区西新宿2-8-1

所属部局の名称 〇〇局〇〇部

長の職・氏名 部長 淀橋 一男 (文書番号、所属部局の長の自署若しくは押印又は公印)

6 休業補償

全部休業した日についての計算	(平均給与額) 13,393 円 × $\frac{60}{100}$ = 8,035 円 × 40 = 321,400 円
一部休業した日についての計算	(平均給与額) (13,393 円 - 4,199 円) × $\frac{60}{100}$ = 5,516 円 × 3 = 16,548 円
(A) + (B)	337,948 円 - 330,119 円 = 7,829 円

7 休業援護金

全部休業した日についての計算	(平均給与額) 13,393 円 × $\frac{20}{100}$ = 2,678 円 × 40 = 107,120 円
一部休業した日についての計算	(平均給与額) (13,393 円 - 4,199 円) × $\frac{20}{100}$ = 1,838 円 × 3 = 5,514 円
(A) + (B)	112,634 円 - 110,013 円 = 2,621 円

8 備考

( ) 年度給与改定に伴う請求

昇給昇格に伴う請求 (令和 5 年 4 月 1 日)

その他 ( )

8 送金希望口座等

金融機関名 〇〇銀行 本支店等名 〇〇支店 口座種別  普通 当座

口座番号 1234567 (フリガナ) キュウキョウホシウビアツカシヤ ソウムカチョウ コノ イロ 休業補償取扱者 総務課長 甲野 一郎

請求(申請)者以外の口座に振り込む場合は、受領者と口座名義の名前を一致させる。

円未満切捨て処理後請求日数を乗じる。

別紙2「一部休業した日に支払われた給与の算定内訳書」で算定し直した額

別紙1「平均給与額算定書」で算定し直した額

文書番号、所属部局の長の自署若しくは押印又は公印

銀行に届けている口座名義を正確に記入

通帳のとおり正確に記入し且つ、フリガナを付ける

* 決定金額	休業補償	円	* 通知	年 月 日
	休業援護金	円	* 支払	年 月 日
	合計	円		
* 受理 到達した年月日	所属部局	任命権者	基金支部	
	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

〔注意事項〕

- 1 送金希望の場合は、請求者若しくは、受領受任者と口座名義人が同一であること。なお、口座番号を明記すること。
- 2 □印の該当するところにはレ印を記入すること。
- 3 休業補償請求金額欄の旧休業補償額と既請求分欄の休業補償合計額とは一致し、既請求分欄の休業援護金合計額と同欄の休業援護金の額とは一致する。
- 4 請求（申請）者は、\*印の欄には記入しないこと。
- 5 令第1条職員とは、定年前再任用短時間勤務職員等及び常勤的非常勤職員をいう。
- 6 年月日の記載には元号を用いること。
- 7 「請求者の氏名」欄は、自筆による署名でない場合、本人確認を行うことがあります。